

関係者ヒアリング結果概要

- 1 日時
平成30年11月16日（金）15時00分～15時50分
- 2 対象者
在留資格「技能実習」フィリピン人 5名
- 3 立会者
外国人の受入れ企業（造船業）職員
- 4 対応者
法務省
- 5 内容
 - (1) 対象者について
 - 来日してからそれぞれ2年5か月、2年6か月、1年6か月、2年3か月、2年1か月であり、平均して2年1か月である。
 - 社内でのタガログ語の通訳は2名で、400名ほどいる技能実習生への対応を行っているが、基本的に不足感はない。
 - 日本語教育は来日前と後で1か月ほど実施し、その後は自主学習が基本である。また、不定期ではあるが近隣の日本語学校から講師を招聘し、希望者に受講させる機会を設けている。
 - 日本語が分からないときは、技能実習生の先輩に聞くことが多い。また、生活の中では、分からない日本語を携帯電話で撮影し、翻訳アプリを用いて対応している。
 - (2) 就労・給与関係について
 - 作業内容は、溶接が3名、塗装が1名、足場が1名である。作業内容について疑問があるときは、技能実習生の先輩や日本人の責任者に尋ねることが主である。
 - チームは最小2名から最大10名程度であり、日本人と2名のチームになることもある。その際に日本語の問題を感じることもあるが、教えてもらいながら解消することができている。
 - 勤務時間は8時から17時が定時であるが、1～2時間程度残業することもある。また、休暇は週休2日制であるが、土曜日に勤務することもある。
 - 全員が社員寮で生活しており、門限は23時である。また、基本的には自炊であり、昼食時に一度寮に戻り食事をする者もいる。
 - 仕事は楽しいと感じており、中には5年間仕事を続けたいと感じている者もいる。また、日本は法律やルールがしっかりと整備されており、安心して生活することができるのも大きい。
 - 給与については、帰国後の家の購入や家族の生活のために貯蓄をしている者が多い。
 - (3) その他
 - フィリピンと交通ルールが異なること（フィリピンは右側通行である等）、ホ

ームシック等，日本での生活に慣れるまで時間がかかることも多かった。しかし，社員寮では，無線LANが整備されており，毎日通信アプリ等で連絡を取っている者もいる。

- 会社からは初めのオリエンテーションの1か月間は手当が支給されているが，その後に初任給をもらうまでの生活が大変であった。
- 日本はフィリピンと比べて寒いので，気候に慣れる必要がある。
- 役所や病院のことなど，一人では対応が難しく，通訳の人に頼る場面が多い。
- 日本語の理解が十分ではないこともあるが，決まった場所にしか外出することはない。
- 技能実習を終えフィリピンに帰国したら，ここで得た技術を伝えていきたいと考えている。